

# 連結経営の時代へ

## 連結会計・連結納税は大企業だけの話だと思いませんか？

グループ企業の総合的経営の舵取りやディスクローズの観点から、今や大企業やグローバル企業以外においても多くの中堅・中小企業が連結会計・連結納税に取り組み始めています！

### 1 グループ全体の業績把握による総合的意思決定に役立つ

独立採算制度による競争原理、または組織を目的別に分離し、責任や職務分掌の明確化等によるグループ経営をしておられる企業様が多いですが、その総合的な経営を判断するには、連結会計は不可欠です。さらに煩雑な資金の動きも連結キャッシュフロー計算書まで作成し、組織全体の意思決定にも役立ちます。

### 2 決算書の信用力、透明性の向上

海外進出、M & A、目的別分社により、企業グループは多岐に渡ってきています。金融機関を始めとする債権者からのディスクローズという観点からも、要請の高まりを見せしており、連結会計への取り組みによって、決算書の信用力・透明性は高まります。

### 3 連結納税で節税が可能に！

連結納税制度とは、企業グループの一体性に着目し、その企業グループをあたかも一つの法人であるかのように捉えて、法人税を課税する仕組みです。国内においては平成14年8月に施行され、出資比率100%の子法人を抱える企業グループが適用されますが、合算による課税制度であることから、節税メリットの享受を目的として、毎年申請企業が増加しております。

### 4 導入にあたって

#### システム導入の必要性

連結に関するシステムはこれまで極めて高額なシステム購入の必要がありましたが、当法人にてシステムを保有し、帳票等の提供が可能となりました。

#### アウトソーシング

社内に法制度に精通したスタッフを配置しなくても、必要な情報を提供することにより、TACTグループでこれらの業務を受託することが可能となりました。

#### 有利不利選択

連結納税について、節税メリットについて、効果があるか、ないかの診断シミュレーションを実施し、結果を見て意思決定することができます。